

第4回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会議事録
(社会基盤整備・市街地機能更新部会)

1. 開催年月日

平成31年2月20日(水) 午前9時31分～午前10時59分
千代田区役所4階 401会議室

2. 出席状況

委員定数5名中 出席5名

出席委員

【副部会長】小澤 一郎 (公財)都市づくりパブリックデザインセンター顧問
中村 英夫 日本大学教授
橋本 美芽 首都大学東京大学院准教授
村上 公哉 芝浦工業大学教授
村木 美貴 千葉大学教授

関係部署

佐藤 尚久 環境まちづくり部参事 環境まちづくり総務課長事務取扱
笛木 哲也 環境まちづくり部特命担当課長
齊藤 遵 環境まちづくり部建築指導課長
三本 英人 環境まちづくり部麹町地域まちづくり担当課長
神原 佳弘 環境まちづくり部神田地域まちづくり担当課長
佐藤 武男 環境まちづくり部地域まちづくり課長

庶務

印出井 一美 環境まちづくり部景観・都市計画課長

3. 傍聴者

4名

4. 議事の内容

議題

- (1) (仮称)千代田都市づくり白書案について
- (2) 千代田区における都市づくりの主な論点・テーマについて
- (3) 都市計画マスタープラン改定イメージ(全体構想・分野別構想等)について

《配布資料》

次第、席次表、千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会委員名簿
資料-1 千代田都市づくり白書〔I〕「都市の特性と魅力」編(案)

資料－２ 千代田都市づくり白書〔Ⅱ〕「データ・資料」編（案）

資料－３ 千代田区における都市づくりの主な論点・テーマと都市計画マスタープラン改定イメージ

《参考資料》

参考資料－１ 千代田区都市計画審議会諮問文（写）

参考資料－２ 第３回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会議事録・議事概要

参考資料－３ 千代田区都市計画マスタープラン改定スケジュール

参考資料－４ 平成３０年度第２回都市計画審議会議事録

参考資料－５ 東京における土地利用に関する基本方針について（千代田区関連部分）

５．発言記録

【印出井景観・都市計画課長】

すみません、定刻を過ぎておりますので、始めさせていただきたいと思いますが。

傍聴の確認については、事前にご確認いただきましたので、もう傍聴者の方には入っていただくような形で準備をさせていただいております。

それでは、都市計画マスタープランの改定の部会、二つのさらにワーキングに分けて開催をさせていただきます。

お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

景観・都市計画課長、印出井でございます。進行のほうを務めさせていただきます。

今、申し上げましたように、大人数の部会で行いましたので、二つのグループに分けて、本日、９時半からはいわゆる、基盤だったり、さまざまな社会資本系というような、あるいはエネルギー、環境、住宅というような大ぐりに分けるとハード系というようなことになるのだらうと思うのですが、先生方に深掘りをして、ご意見をいただきたいということで、お願いをしております。

進行のほうは、全体の部会の副会長でございます小澤副会長のほうにお願いをしたいと思います。

傍聴の確認は終了しておりますので、本題に入らせていただいて結構でございます。よろしく願いいたします。

【小澤副会長（以下、副会長）】

はい。それでは、もう席上に配付されておりますので、資料の確認をしていただいて、説明を始めていただきたいと思います。

【印出井景観・都市計画課長】

本日、お配りをさせていただきました資料でございますけれども、次第と、あと部会の委員の名簿。

それから何回かご意見をいただいております都市づくり白書の本編、いわゆる「都市の特性と魅力」編という形で、ネーミングしてみましたけれども、本編のほうと、あと、データ・資料編という形で少しボリューム

ムのある冊子になっております。

資料3ということで、A3のオレンジの地になっていますが、これまで白書をまとめる過程の中で、さまざま今後のまちづくりについてキーワード、テーマをいただいたのかなと思っておりますが、それをまとめさせていただいて、改定に向けた少スケルトン、骨格、目標の分類整理等を試みてみたということでございますので、今日はこれについて様々更にキーワードをいただいたり、ご指摘をいただければと思っております。

それから、参考資料として、都計審、毎回確認いただいている諮問文のほうと、参考資料2として前回の改定部会の議事録と。

それから、参考資料3として全体の改定スケジュール。

参考資料4として都計審の本体の議事録、昨年、第2回の議事録。

それから、ご案内かと思うのですが、参考資料5として、先般、東京都の都市計画審議会のほうから答申をされました土地利用に関する基本方針について、全体については、少しご覧いただく機会があるのかなということで、今回はお配りしていないのですが、その中で千代田区関連部分の抜粋と概要だけお配りをさせていただいたところがございます。

資料の確認は以上でございます。

【副部会長】

順次、説明をお願いします。

【印出井景観・都市計画課長】

では、引き続き、説明を。

それでは、ご説明をさせていただきます。

白書の関係につきましては、さまざま前回の部会でもご意見をいただいたのですが、少し大きなところでは、千代田区の地域特性を踏まえて、旧江戸城に由来するということで、白書のいわゆる特性と魅力編の43ページの中に、千代田区全体の都市の骨格軸と拠点の中に旧江戸城の外堀の御門に当たるような秋葉原ですとか飯田橋ですとか市ヶ谷ですとかというところをプロットし、その次のページですね、コラムという扱いなのですが、隣接する拠点との連携性についてまとめさせていただきました。大手町、常盤橋、神田日本橋、日比谷・有楽町から銀座のラインもあるでしょうし、下のページに行くと13番のところで、日比谷から内幸町、それから新橋、汐留というような、そういったほかの区と連携するような位置付け、ここで確認をしながら、今後の都市計画マスタープランの中で少し忘れないように念頭に置いておこうというようなところが非常に大きかったのかなと思っております。

それから、データ編のほう、これは分厚くて恐縮なのですが、「データ・資料編」ということで、一番わかりやすい人口の動きをかなりいろいろな視点から整理をさせていただいております。住居の観点、世帯も入れて30ページ余になっております。今、さらに深掘りしたデータをとっているのが35ページ、6ページ辺りに続く、いわゆる交流・滞在人口の動向について、前回、フリーWi-Fiのアクセス状況のホットスポットのデータをお示ししていたのですが、時間別とかの動きがわかりづらいので、携帯電話

の空間統計情報を今、調達をしておりますので、最終的に落とし込む段階で少し入れられるのではないかなと思っております。いわゆる拠点として位置付けられるところの標準的な一月をとって、24時間の人の動きについて確認をしていきたいなと思っております。

それから、これまでさまざまな資料に分かれてお示しをしていたものを一つにまとめたということなので、中身としてはかぶるものがあるかと思うのですが、特にページでいいますと、69ページ以降でいわゆる分野別の整理を地域別にカルテとしてまとめた。番町地域から大丸有地域まで、歴史から居住から土地利用というようなところをまとめたということになっておりまして、この辺が今後、地域別の構想の検討の際の素材としてご活用いただけるのではないかなと思っております。

白書はそういう状況でございます。

それから、次に、資料3でございますけれども、これについて、今日、さまざまコメント、ご意見を頂戴したいなと思っておりますが、前回、白書についてご意見をいただく過程の中で、大きな今後の千代田区のまちづくりのテーマについて、若干ランダムでございますけれども、ご意見をいただいたのかなと思います。それをいくつかの切り口で整理をして、今の時点における次期改定都市計画マスタープランの骨格についてのご提案でございます。

資料3の1ページ目は、左側の項目IからVIについては、前回お示しをさせていただいた項目で、今後の人口増に対してどう対応していくのだろうか。それから2番目として、千代田区の地域特性の中でも最も顕著な国際都市、すみません、それは3番ですね、国際都市・首都東京を牽引する都市ビジョンとしてどうなのだろうか。2番目の中では、多様な人々が活動、交流する千代田区における今後の都市像というところでございます。4番目については、やはり新しい住民が増える中で、一方で、エリアマネジメントの動き等がある中で、まちの担い手とかコミュニティの在り方はどうなのだろうと。ただ、5番目からは切り口が変わりますけれども、その中でも優先順位的に取り組む課題って何だろうか、あるいは優先的に取り組むエリアってどこだろうかというような視点でございます。最後に、それをまとめていくプロセスというところについて、大きなところでご意見をいただいたのかなと思っております。

こういうご意見を骨格から右側の中で部会でお示しをした後、都計審を開催させていただきましたけれども、都計審のほうからも補足、補完するようなご意見をいただいております。赤で示したところがそういったご意見になっています。

今後の人口動向でいえば、大きなI番の1の丸の三つ目のところですが、定住人口を確保して、利便性を評価するような新しい居住者に対して、どういうふうに関わりを深めていくかというようなことが論点になってくるのだろうかというご指摘もございました。

それから、下から3番目のまちづくりの担い手・コミュニティの中で、1番、2番目の丸の三つとして、やはりエリアマネジメントの安定的な運営をされているものというのは、大規模な開発につながるものであって、なかなか既成市街地におけるマネジメントというのは難しいよねと。伝統的なコミュニティの持続可能性との関連もあるのだけれども、その辺のあり方というのが大きなテーマなのではないでしょうかということでございます。

それから、5番目として、エリア特性の話になってきますけれども、エリアごとのまちづくりの考え方を明確化する必要があるのではないかなということでございます。2番目の中で、これは当初からご意見がござ

いましたけれども、やはり量的インセンティブではない新たな魅力を高める、そういった起爆剤となる要素について、しっかり明確化していく必要があるだろうということでございます。3番目が、なかなか我々の中で議論したときにわかりにくかったのですけれども、やはり宅地の大部分が商業でございますので、ある意味、経済の影響を非常に受けやすいと。今、商業の中に住宅が入ってきておりますけれども、その環境が十分整っていないければ、経済の状況によっては、また用途転換をして、居住機能を喪失するという可能性もあるのではないかとということで、そういったご指摘かなと思っております。

マスタープランの改定のプロセスについては、なかなか区民と都市計画マスタープランの接点というのではないものですから、その辺について、しっかり念頭に置いてやっていくようにというご指摘だったのかなと思っております。

これを受けて、少し整理をさせていただいたのが、次の2ページ目でございます。今後の改定都市計画マスタープランの骨格のたたき台みたいな形になるかなというふうに思います。白書の取りまとめの考え方も踏まえておりますけれども、左側で広域的ないわゆる環七内側の東京都市計画のコアな部分の中での千代田区の位置付け。少し伝統的な言い方をすると、副都心群とか、あるいは羽田とか大崎とか新たな拠点との関係性もイメージしながら、下でございますけれども、千代田区、江戸城を由来とする千代田の骨格図を示していく必要があるだろうと。右上に行くと、千代田区の今の現在地ということで、これは白書で示された視点、国際都市・東京、千代田区の江戸期からの都市づくりの系譜と都心における「ちよだ」の魅力ということでございます。

それを次の改定に生かしていく中で、真ん中辺りについては、社会変化の見直し、外的要因に近いようなものを整理をしております。首都直下地震の話、人口動向の話、それから利便性とか文化の魅力の向上と都市の関係性。あと、働き方改革ですとかシェアリングエコノミーとかという生活スタイルが変わっている。そして、あとは、なかなか今、我々のほうですぐにイメージはしづらいのですけれども、自動運転とかIoTとかスマート化とか、先端技術が都市づくりに実装化されつつあるというような、そういう社会の動きのフィルターにかけて、先ほど説明した三つの大きなまちづくりのキーワードを少しまとめてみたところでございます。

これをまとめたときに、共通してくるような概念として、少しありきたりなキーワードなのかもしれないのですけれども、都市の先進性とレジリエンス、強靱性、それから持続可能性、これは経済もそうですし、コミュニティもそう、エネルギーもそうだと思うのですけれども、そういった共通の視点というのがあるのかなというところでございます。

そこで整理をしたテーマとしては、ベースになるものとアプリケーションになるようなイメージのものと、それから、都市のソフトとしてベースになるような、右側が千代田区らしさみたいな話かなと思っております。左側が都市のベースになる生活みたいな話になってきているのかなと思っております。

こういう1、2、3、4、5、6、7、七つのテーマを考えてみたところでございますけれども、それをどう改定に結び付けていくのかというような対照表が3ページ目になっております。3ページ目は、左側が現行の都市計画マスタープランということで、右側に今の段階で考えている改定の基本的な構成というところでございます。全体の全体像としてこんな感じになってくるのかなと思っております。

今、この瞬間に平成10年に示された理念、「歴史に育まれた豊かな都心環境を次世代に継承し、世界の人

に愛されるまち、千代田」というところが、ある意味、持続可能性とか先進性、先端性も含まれているというイメージなので、基本的に大きく変えるような理念ではないのかなと思っておりますが、その中に今後新しいもう少しブレークダウンした将来像をどう整理していくのかということになってくるかなと思います。これについては、ここで説明するよりも、次のところで説明をさせていただきます。4ページ。

4ページの上のところの上に一番上の行に、都市づくりの主要なテーマを踏まえた分野設定の見直しというところで、1、2、3、4、5、6、7、左から右にあります、これが先ほど申し上げた2ページ目の整理の視点でございます。関係性からいうと、1ページ目でIからVIまで各委員の人からいただいた主なテーマを少し我々のほうで整理をして、主要なテーマとして若干精査したものが1から7というところのかなと思います。その主要なテーマに現行の分野別の目標の背景をマトリックスで書き合わせたときに出てくる新たな都市マスの分野別とっていいのか、この辺が非常に難しく、分野と分野がまたがるようなテーマとか戦略というのでしょうか、そのまとめになっています。

主要なテーマの中で、「資産とポテンシャルを活かした創造的な生活の場をつくっていく」、人口8万人を見据えて、今後のまちづくりをどうしていくのか、さまざまな生活スタイル、純粋に住むとか不動産を営むとか働くとか、そういう方々における生活の場をどうつくっていくのかということのテーマには、従来でいえば、土地利用の話、住宅・住環境整備の話、緑と水辺の整備と、そういったものが関わってきますよねというような中で、大きく都市の基本デザインというような形で一つ重なる点をまとめられないかというようなことです。それから、住宅・住環境整備については、単純に居住するだけではなくて、生業を営むとか働くとかも含めた都心スタイル創造というような一つの重なる点についてのネーミングをしているというところがございます。

全体として、そういう構造になっていまして、わかりやすい例でいえば、従来でいえば、緑と水辺の整備というようなことで、ハード整備という、緑被率を上げていくのだ、緑の水辺の豊かな歩道をつくっていくのだみたいな話だったのかなと思うのですが、それだけではなくて、どういうふうにそれを使ってもらうのか、公共空間と民間空間をどうシームレスに設計し、マネジメントしていくのかというような、そういうイメージもしっかり含めるようなことが必要だろうということで、左側の緑の水辺と右側の三つの時代にあった価値、縦軸ですけれども、目指していく都心の風格や環境、多彩な空間をマネジメントしていくというのは、それを交点としてイメージしているというようなところでございます。

その中で、やはり福祉のまちづくりというところが、ある意味、もうハンディキャップチャレンジの人たちが社会に出ていくということが当たり前になってくるとすれば、福祉のまちづくりという分野別計画ではなくて、もう一段、下から3行目ですけれども、もう都市の将来像の中で、多様性を許容するとか、そういうような形で位置付けていきながら、福祉のまちづくりという形で何か特別なものとして出すよりも、もう少し普遍的な形で落とし込んでいく、難しい話になっていますけれども、そういうところがどうだろうかという話でございます。

下から2行目の景観づくりについても、良好な景観形成というような形だけではなくて、それをどう活用していくか、使っていくかということで、マネジメントの部分と交わってくるというところがございます。

それから、右から、列ですね、縦の列の右から2番目、「まちの文脈をつなぎ、固有の魅力・価値を熟成させていく」というところでございますけれども、部会とか都計審の議論の中で、全体を通じて共通しているのかなと

思ったのは、定住人口を確保する中で、やはり千代田区らしさというのがなくなってきてしまっているのではないかというところがあったのかなと思います。だから、その辺りを全体を通じてどうやって千代田区らしさというのを歴史を掘り起こしながら、もう一回未来に発現させていくのかということがございますので、主に土地利用と景観づくりに関わってくるのかなと思うのですけれども、そういう形のプロットになっています。

それから、一番右側については、やはりそれをどういうふうに構想し、設計し、運営するというところについては、全領域に関わってくるかなというところになっております。今、整理をしているところがございますので、それをもう一段シンプルに、先ほど申し上げた先進性とか強靱性とか持続可能性というような大ぐりの言葉でくりながら、左側にあった従前の土地利用から始まる都市計画マスタープランの分野別目標と方針というのを新しく再構成したらこんなことになるのかなというところを考えております。なかなか伝統的な都市計画運用指針に書かれているような都市マスの構成では、特に千代田区の中ではうまく施策にプロットできないなという悩みの中で、こういうふうなことを考えてみたところがございます。

結構生みの苦しみにわかりにくいというところがもしかしたらあるのかなと思ってまして、ただ、こういう議論を通じて、各施策分野が密接に関連するとか、やはり本当にレイヤー構成になっているのだよねというようなことについてご指摘をいただいた上で、結果として、では、シンプルなもとどおりの都市計画運用指針の枠組みに近いものにしたらいいのではないのという話になったら、もうそれはそれで結果としていいのかなと思っていますけれども。ここの辺りについて、こういった大ぐりの見直しの方向性ですか、今日は特にソフトよりも社会資本系の話を中心に伺えればと思うのですけれども、ご意見を賜ればと思います。

その次の6ページは現在の都市計画マスタープランの課題認識と分野別の目標というのを少し振り返っております。20年前は、ほとんどの自治体がこういう形で都市計画マスタープランを策定をしておりました。現在、都市計画マスタープラン、23区の中でも改定をしていますけれども、やはりこういう形で、これに沿って改定をしているというところも多くなっていることは事実でございます。

7ページ目が、今後、都市マスを改定するときの目次案になるようなイメージで、最後のところ、8ページなのですけれども、先ほど申し上げた新しい都市づくりのビジョンというのが七つほどこれまで出ている都計審、部会の先生方からのご意見のテーマというのを議論されていないので、そのままお出しをさせていただきます。

それから、もう一つは、SDGsとの関係。一旦、これに落とし込んで、新たな都市計画マスタープランの改定の骨格をつくるのだけれども、そこをSDGsの観点から最もここで取り組むべきターゲットを取捨選択をして示していくということも、これまでの都計審の議論の中では必要ではないのではないですかというようなご指摘もあったので、そこも入れております。

それから、現行都市計画マスタープランに欠けていたのは、千代田区の都市像というのを明確に示していないので、20年後を見据えた骨格構造というのはどうするのかというようなところがございます。

最後は、エリア間を踏まえた各エリアの重点的な設定というようなところになっております。

若干、少し作業をし過ぎてしまったかなというようなところはあるのですけれども、今の段階で、事務局提案の資料がこういったものになっているというところがございます。

長くなりましたけれども、ご説明は以上でございますので、さまざまご意見を賜ればなと思います。

【副会長】

この今説明していただいた資料3に関して、どの角度からでも結構ですが、各委員からコメントなりをもらいたいと、そういうことでよろしいですか。

【印出井景観・都市計画課長】

はい、そうです。

【副会長】

では、資料3で今ご説明がありましたけれども、どこからでも構わないと思いますが、各委員から順にまず第一ラウンド、コメントをいただけたらと思いますが。村上先生のほうからよろしいでしょうか。村上先生。よろしいでしょうか。

【村上委員】

ありがとうございます。

4ページのところにいろいろなものが集約されていたかのように思うのですが、あと、8ページの左側でしょうか、都市づくりの目標と基本的な戦略という表がありまして、ここに例として三つぐらい都心の価値を高めるですとか、誰もが暮らしやすいとか、脱炭素・ヒートアイランドというのがあるのですが、これは4ページでいきますと、赤字のところと同じような言葉があるかと思うのですが、4ページでこのマトリックスで示されている部分の大きなこの四角の中ではなくて、何か赤文字で書かれているようなものが基本的には大きな目標というふうな理解、読み方としてよろしいですか。

【印出井景観・都市計画課長】

8ページの都市づくりの目標と基本的な戦略のところ、4ページから5ページの中で、5ページにおける都市の基本デザインというようなくくりを言葉に落とし込んだときに、確かに4ページの赤字のところになってくるのかなと思っています。この辺は整合性がとれていないですが。

【村上委員】

イメージ的にやはり目標があって、それをどう実現するかという戦略がというようなのがどうしても読みやすい中で、この4ページの部分で目標が何か一番強調されるべきではないかなと思ったりはしていたのですが、そういう構成にいずれはなるという理解で。

【印出井景観・都市計画課長】

そういうことです。

【村上委員】

赤字のないところは、今後、その検討中ということで、その後出てくるという。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。

【村上委員】

この4ページの読み方が説明を聞いて何となくイメージはできてきたのですが、まだ直感的、目標がいわゆる一番強調、アピールというか一番強調したいものは何なのかというのがもう少しわかりやすく見えるといいなと思って見ていたのですが。

【副部長】

よろしいですか。

【村上委員】

ええ。

【村木委員】

私はあまりよくわからなくて、すみません。この4ページ、最初の説明だと、左側の現行都市計画マスタープランの構成って、この土地利用から設定しているのではないですか。これからの都市づくりの主要なテーマというのが上の軸に書いてあって、この軸に書いてあることと現行の都市マスの交流点のところにあるのが例えば土地利用だと、都市の基本デザインというのがこれから先に大事だと、土地利用の中で。そういうふうを読む。

【印出井景観・都市計画課長】

そういうことです。

【村木委員】

でも、それは土地利用という中のプライオリティーというか一番基本となるのが都市の基本デザインだということでしょうか。

【印出井景観・都市計画課長】

今の土地利用の書きぶりが本当にどういう用途でみたいな形になっているので、上から来るようなこの「都市の資産とポテンシャルを活かした創造的な場をつくっていく」というところのテーマにふさわしいような複合的な書きぶりにしていくということなのかなと思ってまして。では、都市の基本的なデザインが土地利用だけで完結するというにはならないだろうなという。

【村木委員】

何かいわゆる欧米型のスペイシャルプランニングをイメージされているのだと思うのですけれど。でも、それを受けるときに、今度、都市マスに書かれていることを実現しようとしたときに、かえって誰が何をどうするかというのがわかりにくくなるかもしれない。だから、ゴールとしては、都市の基本デザインというので、今までの平面的な土地利用ではなくて、そこででき上がる、何だろう、行動とか空間とか、そういうものも含めて何か書きたいから、そう書くのだと思うのですけれど、そうすると、その後、縦割りが悪いとは言いながら、結局、現況のところというのは横を見ながら、自分のやらなければいけないことを考える。それがすごく複合的に書いていると、結果的に何をやっていいかというのがわかりにくくなるということもある気がして、そこをどうやって説明していくか。

【印出井景観・都市計画課長】

要は、今までの土地利用の中で、住居系用途と商業系用途を適切に複合化しますみたいな話と、その用途のプロットみたいなイメージだけがあったのですけれども、それに現実の拠点とか都市軸とかというような要素が現行の土地利用の項目のところでは弱かったのですね。だから、拠点とか都市軸とか、その運用だとか調和のある土地利用とか、あるいは、エリア間の特性みたいなところをまずは都市の基本デザインのところで少し補完して説明できないかなと。そこが千代田区の土地利用の方向感だけ出ていて、地域特性化なども踏まえた千代田区全体としてのまちのありようみたいなものが示す場がなかったので、いきなり地域別が普通に始まっていくというようなことなので。

【村木委員】

でも、現行都市マスは1部と2部って、1部が全体ですよ。そういうふうに考えると、1部で語ることとディテールのプランニングの地域別、それに踏み込んだ1部みたいな言い方。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。だから、もしかしたら、2部の前編になるのかもしれないですね。先ほども説明した広域都市計画の中の位置付けだとかという書きぶりが20年前弱だったので、その辺りをどこにプロットするかというのはまず一つ。それと、あと千代田区の都市の特性を踏まえて、単純に地域別に用途がどうこうではないようなソフトとかマネジメントも含めた、同じことなので都市のデザインみたいなところの前振りとしての示し方というのも補完しておく必要があるのかなと。

【村木委員】

そうすると、それはわかるのですけれど、実際に、ハードの都市計画をやらなければいけないことと、のできた後の都市づくりのメンテナンスという意味でのマネジメントというのを一緒に書いてしまうと、結果的に、ハードの都市計画って何をやればいいのかというのも見えにくくなる可能性もあって、そこは私は都市計画が本当にやらなければいけないという、かたい都市計画のあり方というものもちゃんと明確に書い

ておくことがマスタープランで必要だと思います。

【副部会長】

では、中村先生。

【中村（英）委員】

今、ちょうど4ページから話が始まっているので、4ページなのですけれども、上に七つですかね、主要テーマと掲げて。これだけを聞いていると、確かにそれぞれそうだねと思って聞いてはいるのですが、それを今度、下とやって、マトリックスに落とし込むと、何かかなり重なり合いだったり、これってこういう意味だったのみたいな感じで受け取るやつがあって、違和感があるのがいくつかあるなという感じがします。

例えばですけれども、七つのうちの二つ目ですかね、「世界都心に相応しい次世代の高質な都市機能」というやつが道路、防災、環境に赤枠で多分マトリックスを対応づけているのですけれども、例えば、これこそ都市の基本デザインの何か一番何というか、上位に来る概念なのかなとも思っ一瞬みていたやつが、ここを意識していたのだみたいに受け取ったり、そういうところもあって、あまりこのマトリックス自体は多分途中段階だと思うので、あまり気にはしないのですけれども、事務局さんの思っているイメージと、若干この七つのテーマで文字面から受けるイメージと違うかなという感じがしました。

それから、三つ目のマネジメントとか風格の話であったりという話と、最後の多様な主体という話のところもマネジメントがどっちに主体を置いているのかなとか、マネジメントが何か水辺空間系と風格だけについているのもな、というのもあったりして、その辺のイメージが違うかなという、これは印象だけです。

ただ、七つをちゃんとうたって、これが3ページの全体の構造図でいうと、あれですよ、分野別であったり、地域別であったり、あるいは横断的なマネジメントの方針というものの上にかかる、まさにこれはビジョンの主要テーマという部分なので、ここを最初にしっかりとうたって、分野別に落ちていくという、その流れ自体は非常にわかりやすいし、いいと思いますので、もうちょっと整理の仕方、こういう表題を掲げて、多分、数行こういうことを目指していきます、気をつけていきますというのが並ぶと思うので、そこを書くときに、もう一度改めてその中身の重なり合いであったり、イメージというのをもう一回議論できたらいいかなと思います。

それから、都市構造図というのは前なかったのですかね。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。

【中村（英）委員】

だから、何ページですかね、8ページ目ですかね。8ページ目のところの、このいわゆる最初に来るビジョン部分。ビジョン部分というのは、こういうコンテンツというのはイメージとして私的には非常にあった感じがして、こんな方向でいいかなというような感想を持ちました。

以上です。

【印出井景観・都市計画課長】

どうもありがとうございました。

では、橋本先生。

【橋本委員】

今のご意見と大変近く、同じ4ページのこのマトリックスの内容の精査がもう少し実は必要かなと思いましたが。例えば、私自身は、福祉のまちづくりですか、高齢者居住というところが専門なのですが、防災ということとコミュニティの問題、人同士の、居住者同士の共助の問題というのは大変密接に関わっていると思っております。そういったしますと、防災まちづくりのところに大規模災害にも。上の右から三つ目、「大規模災害時にも、地域・ひとがやわらかに対応できるようにするための“そなえ”をしていく」ということと、福祉のまちづくりというものは非常に大きく関わっているようにも思っております。すると、そこが同じ囲みではない、囲みは重複していない。こんなところの横の一つ一つ整理はしていただいているのですけれども、重複している部分が切ってしまうといいのかなと思うようなところも多々ございます。

それと同じことが5ページのところでも感じておりまして、5ページ、先進性、強靱性、持続可能性という言葉で色分けをして、中ほどの下半分にテーマ別の特に重要課題と思われるものを整理していらっしゃるのですけれども、ここの部分も例えば上から二つ目、基本領域の住宅・住環境プラス福祉とございますが、この都心生活スタイル創造というもの、薄いオレンジ色で先進性のところがございますが、ここに書いてあることは、むしろ千代田区の場合、強靱性にも関わることなのではないか。ここに掲げている文言は、先進性というよりは、いろいろな地域で同じような取り組みをしておられるものと思いますので、むしろ千代田区ならではというものでいうと、持続可能性、強靱性にも関わるような気がいたします。この整理の内容というのは、もう一度議論をする場を設けていただく必要があるかなと思われました。

以上でございます。

【副部会長】

はい。どうもありがとうございます。

今、4名の委員のご意見というか、コメントをまずいただきましたけれども、これを踏まえてさらにあったらご意見出していただければと思います。提案も含めて、どなたでも結構ですが。

【印出井景観・都市計画課長】

今の橋本先生のご意見に対してですけれども、おっしゃるとおりで、例えば5ページの中の分野別の都市づくりの展開と分野連携の視点というのが、0か100かではないのだろうなと思っております。グラデーションがつくような形になっているのかなと思います。だから、そのところの伝統的な分野別計画と連携軸を綿密にやっつけていけばやっつけていくほど、逆に村木先生がおっしゃるとおり、それはわかるのですけれども、わかりにくくなっているところが一方であるわけですね。ある意味あらゆる形で福祉のまちづくりはどのほかの分野との連携もされているというところで、そこは押さえつつも、どこに重点を置きながら取り組んで

いくのかということだと思います。だから、そこら辺の整理の仕方を額面どおりやってしまうと、それこそ縦横斜め全部重なってしまうという領域が多くなっているのです、その辺の戦略性のプライオリティーの付け方の考え方のまとめということで、一方で、ご指摘のとおり、それでもって見逃してはいけないと思いますので、そういうご意見は重なりについて見逃してはいけないと思いますので、そういうご意見をいただきたいなと思います。

それから、今、これから本来は本格的なご議論をさせていただくところなのですが、昨年度の意見の中で、結構先行して今後のまちづくりのテーマについて出ていただいておりますので、今回まとめています。ですから、今日この時点で示したさまざまな縦軸、横軸が決まってフィックスしているというわけではありませんので、そもそもこの視点についての疑問ですとか補完ですとかについてもご意見を賜ればなと思っています。

【副部長】

はい、どうぞ。

【村木委員】

今のお話を伺っていて思ったのが、都市マスというのは総合計画ではないですよね。都市づくりだから全てのことを網羅しなければいけないというのはわかるのですが、それを全部やろうとすると、総合計画ではないし、分野別の計画があるのだから、その中でも都市計画としてやらないといけないところがどこなのかという視点を絶対に忘れないようにしないと、平仮名まちづくりの全てが入ることになるのではないかなという気がして、それがわかりにくさに私はつながるのだと思うのです。プラス、それを仮に全部網羅するのだというのであれば、プライオリティーとして都市計画でやらないといけないことは何かというのをもう少し書かないと、総花的に何でもやりますという形にならないかなというのが不安に思うところです。以上です。

【副部長】

今日の資料の中では、前半にいろいろ論点の整理がされていて、結論的には7ページ以降の改定計画の骨子案になりますよという理解でいいのですよね。7ページ以降の改定計画の骨子で、目次としては前提があって、1番、2番、3番、4番と書いてありますけれども、これが最後のアウトプットになる。

【印出井景観・都市計画課長】

7ページ以降は、さっきも申し上げたのですが、我々のほうで作り込み過ぎて、アウトプットのイメージとしてはこんなことだろうなと思います。

【副部長】

作り込めていないのは、まだ作成中と書いてあるからわかるのですが、要はこれですよね。ということですね。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。今日はこのアウトプットのイメージを念頭に置きながらも、4ページとか5ページの整理の仕方を中心にご意見をいただければと思います。

【副部長】

4ページ、5ページ。

【印出井景観・都市計画課長】

現行の。

【副部長】

今、村木先生が言われたことの整理をやっぱり僕もしたほうがいいかなと思うのですが、突き詰めていくと、この都市計画のマスタープランでは、あくまでも都市計画というフィールドで社会的に言われているテーマに関して義務的にやること、あるいは役割としてできることを絞り込む必要があると思うのですが、その意味で、社会的テーマとしてそういう関連分野で考えるべきテーマとしてはこういうものがあって、それで都市計画としては、そのうち、例えばSDGsと書いてあって17もあるではないですか。その中で、具体的にまちづくりと書いてある部分もあるし、例えば生活の質だとか福祉だとかというので出てくる項目がありますよね。そうすると、ではSDGsと都市計画ということとの関係で行くと、この千代田区のマスタープランではその部分についてどれを扱うというか、どれについて言及し、計画として述べておこうかと。何かその部分について、例えばもう少し整理する必要があるそうだし、それから、やはりこれからの都市づくりのテーマなりというのが出てきますけれども、これはそれぞれ書かれているのだけれども、若干言葉遣いが違っていたり、重点の置き方が大きいような表現にもなっていたり、そうでもないような表現になっていたりするのであれですけれども、やはり地球温暖化対策とか脱炭素化に向けての取り組みというのは非常に重点が大きいですよ。それからSDGsに対しても大きいですよ。

それから、もう一つ大きいのは、多分都市計画の物的計画の中で一番大きいと思われるのは、次世代モビリティだと思うのです。自動運転モビリティは多分黙っているとまちを破壊することになる。それはもう世界的にいろいろな各都市のレポートでも言われていたり、世界経済フォーラムでもそのための緊急レポートが出たりしているわけです。そういう中で、多分これから都市の空間の大きな変革のエネルギーとして一番の大きなテーマは自動運転モビリティと。これをどう取り扱うかによって全然違ふと。破壊的に影響が出るところと、それがきちっとマネジメントされて望ましい空間づくりに行く都市と、その分かれ道ですよというのがあちこちで言われていることなのです。

だからそういうことで、大きなテーマに関して、都市計画としてそのテーマに関連して何をやることにしましょうかということについて共通の理解ができるといいかなということで、材料としてはどこかに確かに入っていると入っているのだけれども、それが何というか、あまり体系的ではなかったり、表現ぶりがもう少し整理したほうがいいのではないかなという状態にまだなっていると思いますので、材料としてはあ

りそうだから、これの整理をもう少しするというので、各先生方にもご指導していただいたらどうかというのが総論的な意見です。

それを踏まえてどうでしょうか。今、一通り各メンバーのコメントが出ましたけれども、いかがでしょうか。エネルギーとかそういう部分で、村上先生どうでしょうか。

【村上委員】

エネルギー、そうですね。

【副部長】

あともう一つ、地区別の方針が出てくるところに、どこかに区境の他区との連携みたいなところを触れたのがありましたよね。

【印出井景観・都市計画課長】

まずその前提として、いわゆるセンターコアにおける千代田区の位置付けと、千代田区と周辺の位置付けみたいなものを今まで示してないのだけれども、示す必要があるのではないのでしょうかというの。

【副部長】

それでいいのだけれども、最後のアウトプットで私が今確認した、11ページに、例えば地区別構想という章が立てられるわけでしょう。そうですね。11ページの右下のほうにエリアが書かれてあって、今、検討中となっているのです。だけれども、他区との連携をやる必要があるよと白書のほうで言っていたと思うのですけれども、それがここに出てこないといけないのではないかと。

【印出井景観・都市計画課長】

前段の白書の中ではそういう視点が必要だよと。拠点の連携とかというイメージが必要だよとということまではお示ししておるのですけれども、ここにどう落とし込んでいくかは宿題として受け止めさせていただきたいと。

【副部長】

それは、僕は書いたほうがいいのかと思うのだけれども、ほかの先生はどう思うかあれだけれども。例えば。だから白書のほうにはそういうものが出てくるのだけれども、最後のでき方のところを見ると、あれ抜けているというのがあるそうだね。

【印出井景観・都市計画課長】

一つのまとめ方としては、中村先生がおっしゃったように、都市の骨格軸の中にそういう連携についての記載を少し図面の中に落とし込んでいくと。ただ、小澤先生がおっしゃるのはそうではなくて、それこそエリアの整備構想の中に他区との連携の部分も落とし込んでいくという話だと思えるのですけれども。

【副会長】

そのほうがいいのではないかと。

【印出井景観・都市計画課長】

それがどこまで入れ込めるか。

【副会長】

お茶の水は文京区との関係もあるし、日本橋から神田のところはずっと中央通り沿線というのもこれから随分変わってくると思うのです。日本橋があれば随分変わってくるから。そうすると、そういう中央通り沿線みたいなものが出てくるので、神田につながるとか。そうすると、それぞれ区境を連携して考えていくべき、あるいは一緒に共同してやっていくべきというのはテーマとしてありそうですよね。

【印出井景観・都市計画課長】

テーマとしてはもちろんありますし。

【副会長】

その辺は書いておいたほうが良いような気がする。

【印出井景観・都市計画課長】

拠点をまたぐ開発の中で、多分そういうことを整理の特色として打ち出している特区の例とかもありますので、あとは千代田区の都市計画マスタープランの中にどこまで書き込めるのかというところですね。その辺の限界がどこなのかという話が。

【副会長】

あと、都市計画マスタープランで書いたものと、それから、例えば温暖化対策のまちづくりが必要だよ、脱炭素化に向けたまちづくりが必要だよということを書いたとしますよね。その分野別の方針のところにもそういうテーマに関して書いたとしますね。それは、例えば区全体で行けば環境のほうでやっている地域推進計画だとか、環境モデル都市行動計画だとかという、そういうアクションプランみたいなものとちゃんと連動するというのが見えるようにまとめたほうが良いと思うのだけれども。そのときに、今言いました、自動運転時代の次世代モビリティーに関してのモビリティービジョンで地域モビリティービジョンだとか、今、村上先生にご指導していただいている、エネルギーに関する地域ビジョンはまだないですよ。

【印出井景観・都市計画課長】

今はないです。

【副部長】

ないでしょう。だけどエネルギービジョンについては今策定中ですよ。過年度から勉強しているということなので、例えば地域エネルギービジョンというものはどう扱おうかというのはやっぱり区のほうとして考えておいて、非公式のまとめとしておこうとするのか、いや「千代田区エネルギービジョン」という何か指針みたいなものにちゃんとして、民間の事業者に対してもちゃんと公表して、それを再開発なんかに考慮してもらおうようにしていこうという指針をつくるようにしようだとか、その部分についての方針を区の中で固めておく必要があると思うのです。この自動運転モビリティに関しては、まだ全く何も議論してないではないですか。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。

【副部長】

そうですね。だけど議論する部局はあったのか。

【印出井景観・都市計画課長】

ないです。都市マスの議論の中で少し頭出しがされるというようなことです。

【副部長】

そうすると、もしそういうモビリティビジョンなりを検討する組織、部局がないとすると、やっぱり都市計画の中に交通計画というのが非常に大きな、土地利用計画と交通計画という二本柱があるのだから、その部分できちっと対応するようにしないとイケないねということも全委員もちゃんと理解して、今回の改定の中にちゃんとその部分が明示的に入るとかということも重要なので、その辺の整理をもう少ししておいてもらった上でこの資料を見ると、もう少しわかるのではないかなという気がするのです。材料は整っているので、もう少し今日の意見も踏まえて、そういう方向でまとめていくと議論がもう少し深まっていくとか、整理されていくという感じがすると思うのです。

どうでしょうか。

【中村（英）委員】

関連で、以前、小澤副部長がお茶の水とか、いろいろ区境の拠点の話がされました。今話を聞いていて、そういえばこういうのがあるよなと思ったのは、例えば自動運転というのは、正直区境とは関係なく車は動き回るものなのでという話もあるし、これで言うと、緑の空間のそういう空間系のつながりというものもあるから、そういう意味でのチェックというか、自動運転は別なのですけれども、空間的な他区との、周辺区とのつながりであったり連携であったりと、何かそういうのもチェックポイントとしてはあるかなという感じがします。それはぜひ見ておいていただければと思いますのと。

あと、自動運転は、正直今どうなるか非常に過渡期というものもありますし、特にこういう一般市街地部分

の自動運転は、この都市マスの計画期間でどうなるかというのは正直よくわからないところもあるのですが、ただ、部会長がおっしゃったように、それに対してちゃんと手当てをするというか、検討するとか対処するとか考えるとか、あるいは先進的に何か実験的に取り組むとか、何かそういうことをしっかりこの中で対応方針というか、対応をするのだという方針をしっかりと書くというのは非常に大事なことかなと思っていますので、そこは大賛成なのですが、ただ、今の段階では、具体的なことまではまだ想定しづらい段階なので、難しいかなとも思いますけれども。

【副部会長】

問題意識でもいいのですけれどもね。

【中村（英）委員】

そうですね。問題意識と。

【副部会長】

基本的に言われているのは、地方都市は自動運転が普及してくると、ドゥ・ナッシングで行政が全く民間任せにしておくと、スプロールがものすごく進んでしまうのではないかと、一般的に各都市で危惧されている。大都市はプラスの面とマイナスの面それぞれあるということなのですが、大都市の中の都心部でのプラスの面は、都心居住者がいかに自動運転モビリティを呼びやすく使いやすく、それから特に呼んだ場合に待ってなければいけないでしょう。ウェイティング施設も含めて、全く新しい都市施設を考えながら、そのコミュニティとして自動運転を、すごく使いやすい状態が確立されているコミュニティと、そうではないコミュニティでは多分価値が変わってくるという分析をしているところもあるのですけれども、要はここはいろいろなことをいろいろな人が想定しながらプラスだマイナスだと言っている状態なのですが、共通しているところは非常に影響が大きそうだ。トゥ・ナッシングはやめたほうがいいのではないかと。行政のほうが黙っていると。今、例えば車の駐車場もコインパーキングがばっと乱立したりしていますよね。カーシェアのステーションも乱立している。これはドゥ・ナッシングの状態ですね、ノーコントロールと。例えば、それが今度は自動運転時代になって駐車場は要らなくなるというのが大体言われているから、3分の1以上は要らなくなる。なってくると、これもドゥ・ナッシングの状態だと、ここまた蚕食された状態が固定化されるところと、うまく土地利用転換されるところとあるけれども、多分何もしない状態であると今よりはよくならなくて、今よりは悪くなる可能性のほうが高いと。例えば、そういう青空駐車場の今の散在している状況がより悪くなると一般的には言われているレポートが多いのだけれども、だからそういうことはこれからの土地利用計画上は物すごく影響が大きいわけでしょう。なので、この部分はやはり都市計画部門が責任を持つべきなので、土地利用計画としてということなので、この辺はアンテナを高くして準備して、どういう段階で何をやらなければいけないかという準備をしていかないといけないという、そこは書いておいたほうがいいのかと思うのです。そういう認識しているよというのを。

【印出井景観・都市計画課長】

今の関係で言うと、次の年度、4月以降、この都市マスの話と、駐車場整備計画、それから緑の基本計画、景観計画、四つの計画が同時並行で動きます。交通関係で言うと、駐車場整備計画というのは、駐車場を適正配置することのみが目的ではなくて、交通環境と市街地における今後の細街路も含めて道路のあり方というところについてしっかり将来像を踏まえた上でやると。単に需要と供給のバランスだけ考えて足りる、足りませんという話ではないという問題意識はありますので、その中で中村先生がおっしゃったように、今イメージできる時間軸の中で、どういう駐車場の適正配置をするのかということと。

【副部長】

そこまではまだいかない。

【印出井景観・都市計画課長】

あと、やっぱり将来のモビリティ改革を踏まえてどうなのかということもちゃんと念頭に置いておかないといけないのだろうな。二つの視点が必要だと思うのです。そこは同時並行的に動きますので、都市マスの議論を部門別計画の中にしっかりと明記する。多分移動環境で言うと、福祉の面で言うと、やはり、では駐車場適正配置で拠点のところ到一个駐車場があれば、そこから先のドア・ツー・ドアのモビリティはどうするのかという話にも多分なってくるので、そこは並行して議論をしていきたいなと思います。この場ではどんどん論点をいただければ部門別計画の中で深掘りをしていくという作業はしていきたいなと。

【副部長】

今言われた、緑のマスタープランと土地利用とか柱がある。交通の柱もある。だけど例えば交通については、マスタープランというのは、調査はして計画策定はするけれども、公的計画にはなってなくて。

【印出井景観・都市計画課長】

交通計画は。

【副部長】

なってなくて、そのエッセンスが調査検討して報告書をまとめたエッセンスがこの都市マスの交通という部門の中に書かれるという位置付けになるわけでしょう。

【印出井景観・都市計画課長】

駐車場整備計画という意味では法定計画にはなりません。だから、先ほども言ったように、単に駐車場の適正配置の計画ではないので、その前段として交通の話も当然、そこは、エッセンスはこの都市マスで。

【副部長】

そういう意味で行くと、緑マスは割と公的計画のほうに盛り込まれる部分が多いと思うんだけど、交通はそれに準じているという。できればエネルギーについても、最低交通と同じぐらいの位置付けをして、

そのエッセンスが都市計画のマスタープランなり何かにちゃんと位置付けられているという状態ができるとういかなという。そうすると、低炭素都市づくりに向けて配慮した都市マスになっているなどとなると思うのだけれども、その部分がそうやる方向で考えていただくとういかなと思うんですけども、これは事務局でもご検討していただければ。

あといかがでしょうか。村上先生はあとはいかがですか。

【村上委員】

繰り返しになるかもしれませんが、この7ページ以降の部分で、私はあまりこういった都市マスに関わる経験がないのですけれども、見た方がどうしても見に行きやすいのはやはり目標だと思うのですが、今回、改定の中で一番メインになってくる目標というのは8ページの左の下の2の「都市づくりの目標と基本的に戦略」の部分になるのか、それとも10ページの赤字でしょうか。比較的4ページのマトリックスで出てきたものが目標になるのか、今回改定するマスタープランで一番表に出てくる目標というのはどこになるのですか。

【印出井景観・都市計画課長】

すみません。そこは2の「目標と基本的な戦略」というのは上位概念になるのかなと思っております。ですから、逆に言うと、4番の赤字で福祉を外しているということだけ捉えられると、要は福祉の視点は多様性とかということと上位に位置付けると。さっきあらゆる分野にそれを落とし込むことの困難性のご指摘があったのですけれども、イメージとしては、それぞれの赤字の七つの中にそういう要素を入れていくというのが今の考え方かなと思います。

【村上委員】

やはり8ページの2の部分に出てくる目標が一番まずは第一目標というか、上位概念ですか。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。その上に理念があってという形にはなりますけれども。

【村上委員】

何かここは恐らくまだ一応仮にまとめているものですか。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。こなれていない。

【村上委員】

やはり上位概念から固まって何か全体に足がそろっているような戦略かなと思うので、ここは恐らく4ページにもあまり明記されてないと思いますので。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。そこはまだ確かに。

【村上委員】

そこはまず固まるのが何となく全体を整理していく上で必要なのかなと思っておりますが。

あとは、先ほど小澤先生がおっしゃられた、エネルギーといいますか、10ページの、この「スマートな次世代都市づくり」一番下にM i r a i - V i e wというのがあるのですが、この辺りが何となく恐らくご担当される先生のコラムになるのですか。

【印出井景観・都市計画課長】

これは村木先生に書いていただこうかなと思っています。

【村上委員】

ですが、ここで何となく小澤先生のおっしゃられたようなことが何となくM i r a i - V i e wとして何か今後の低炭素に向けて進むべき。

【印出井景観・都市計画課長】

都市づくりと低炭素との関係性みたいな展開だと思いますね。

【村上委員】

エネルギーデザインみたいな話が入ってくるのかなということで、なかなか具体的に今の段階でエネルギーデザインの話を地区ごとにとか、そういうのはなかなか難しいので、M i r a i - V i e wで何かご披露していただけると。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。例えば地域エネルギーで未利用、再生可能エネルギーのポテンシャルの調査をしばらくやってきて、それをどのように落とし込むかということについては、エネルギーの基本的な方針として取りまとめるところまで行ってないので、そうすると、まず例えば都市計画マスタープランの地域別構想の中に、その各地域のエネルギーポテンシャルを落とし込んで、今後の開発のときには、検討をするに当たってその地域がそういうポテンシャルがあるのだよということを見せて、そう誘導するというに使っていくというのが一つのイメージではあります。

【村上委員】

M i r a i - V i e w辺りで少しアピールできるといいかなと。

【副部長】

あと、いかがですか。

【村木委員】

いいですか。5ページのやつを見ながら思うと、5ページで、例えば今のエネルギーの話だと、防災のところにも入っていて、「スマートな次世代都市づくり」のところの脱炭素社会というところも関係する。そのときに、どっちで対応するものなのか。それが何かほかのものもそうだと思うのですけれども、例えば防災のところはその上の「緑・水辺、空間マネジメント」のところの避難、避難空間というのがあって、これはもしかしたら都市防災のほうかもしれない。私は、大丸有の地域防災計画、あっちも関係していて、あそこのエネルギーの話というのは、エネルギー部会のほうでお話みんなと一緒にさせていただいているのですけれども、そうすると、自立分散の話とか、ネットワークの話というのが出てきて、だから防災のほうですべきなのか、それとも防災というのは単体の建物の話、また避難の話に特化して、エネルギーのところの主軸というのをどこに置くのか。その辺が何か明確にしないと、結果的にどこを見ていいかわからないというのと、プラスそれを受けて事業を進めていく担当課の人たちの自分の役割が明確にならないといけないのではないかなという気がするのですけれども。さっきの村上先生の話を知っていると、最後の「スマートな次世代都市づくり」がエネルギーみたいな感じですよ、この目次立てだと。

【村上委員】

そうですね。

【村木委員】

何となくその置き場所みたいなもの。

【印出井景観・都市計画課長】

さっき申し上げたのですけれども、こういう議論をした上でシンプルなやつに戻しつつ、逆にこのマトリックスが参考になってくるというのもあるのかなという。

【村木委員】

そうかもしれないですね。防災といたらここと、ここと、ここを見るというマトリックスがあると、福祉みたいなのは全部関係するから、全てのところに関わってくる。その見取り図があると個別ばらばらでもわかりやすい。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。今は強引に逆にマトリックスのほうから体系を立てていったらどうなのだろうかという。

【村木委員】

なるほど。

【印出井景観・都市計画課長】

スタートしていったところなのですが。

【村木委員】

やっと理解できた。

【印出井景観・都市計画課長】

ごめんなさい。確かに途中で自分自身難しいなど。ただ、区域マスタープランレベルの話であれば、何となくそういうまとめ方は格好いいかなとは思うのですけれども、都市計画マスタープランになってくるとなかなか本当にわかりにくくなってしまいうかなという気も。何がどっちに軸足を置いていいのというところがわかりにくくなってしまいうかなと。それはご指摘のとおりかなと思います。

【副部会長】

これは今後の予定はどうなるのですか。

【印出井景観・都市計画課長】

2020年までに策定なので、後足かけ3年ですか、そうすると。賞味あと2年ぐらいで策定していくということで、今年の7月ぐらいまでにある程度スケルトンを全体構想の整理をしていくと。

【副部会長】

例えば、11ページの先ほど話題になった作成中という表がありますよね。この作成中のところに文言が入るのはいつ頃。

【印出井景観・都市計画課長】

骨子で言うと7月ぐらいに骨格が。

【副部会長】

7月頃。

【印出井景観・都市計画課長】

7月に骨格ができるのではないかと。

【副部会長】

それまでにはそうすると、こういうワーキングだとか、これの小委員会はそれまでには一回ぐらいはある。

【印出井景観・都市計画課長】

一回ぐらい。

【副会長】

そうすると、そのときには次のときにはこれが出てくるような、たたき台みたいなのが出てくる可能性はある。

【印出井景観・都市計画課長】

あります、あります。少し議論を深めさせていただいて、3月に都計審の親会もありますので、まとめ方としてこういう。

【副会長】

今少し、それぞれの先生、今日は資料が多くて、いろいろな議論があっちこっちに行ったという点もあって、あまり進行がうまくなかったのだけれども、何ページだ。資料が多いから何かわからない。最初、4ページの話をしましたよね。4ページのマトリックスから行って、例えば10ページ。ごめんなさい、10ページで、これは分野別の目標と方針をでき上がりのマスタープランで各章ですよね、分野別の。そこで、今度はこの赤字の部分で分野別に分野別に書きますよということではないですか。なので、次回がいいのか次々回がいいのかわからないのだけれども、せっかくだからこういう場で一方的に言葉で言うておく、コメントいただくだけではなくて、これどこでも構わないし全部でも構わないのだけれども、メモをもらったらいと思うのです。こういうことはここにはこう書いてもらえないかとかというメモをそれぞれの委員から出してもらったほうが、それをワーキングのほうとしてはできるだけ尊重していただいた上で案をつくってもらほうが生産的かもしれない。そういうことは可能ですか。

【印出井景観・都市計画課長】

ご協力いただければ。

【副会長】

1カ月ぐらいの間で、4月以降をこの項目について何でも構わないから気がついたことがあれば書いていただきたい。分量は問わないから。

【印出井景観・都市計画課長】

今日11時までこのメンバーで、11時から別のメンバーで。

【副会長】

いいですよ。

【印出井景観・都市計画課長】

5人、5人で今日は午前中がとやりますので、次回の都計審までにある程度整理をさせていただいて、村木先生からいただいたように、どういうまとめ方がいいのかという議論もありましたので、そのぐらいの段階で3月以降どうでしょうか。今日の意見を踏まえてまとめてみましたけれどもどうでしょうかという形でのお願いは、もしできれば大変助かります。

【副部長】

では、あと11時までということでしょうか。あと10分ぐらいです。

【印出井景観・都市計画課長】

あとは補足で、今日、参考資料でお配りをした、東京都の土地利用の基本的方針の中で、これはもうほぼ中間答申と同じなのであれですけども、参考資料の5ですけども、千代田区との関わりが深いところをお示ししますが、要は一番報道されたのは、都心における住機能の、もう量的な増大は見直しましたよということが一番大きなところだと思うんですけども、その辺りは千代田区でも、我々としては方向感としてはそういう方向感だったりするのですが、その辺について関連してコメントなどをいただいたり、あるいはここで出ている、相当緑に対して、あるいはエネルギーに対して、千代田区との関連で言えば、さまざま協調的なポイントがあるかなと思いますので、これを踏まえて当然だよねみたいな話とか、その辺についてもご意見いただけるといいかなと思います。

【副部長】

この情報について、12ページのところに、後5分ぐらいですけども、都市づくりのマネジメントの方針という表があって、そこに「豊富な情報を活かせるしくみ」で情報のオープンデータ化などと書いてありますけれど、これについては都市計画の基礎調査は東京都が実施しますよね。そうですね。23区はそれぞれはどういう役割になっているのですか。特に実施主体ではないし、データは全部東京都に行ってしまう。

【印出井景観・都市計画課長】

個別の内容は区が委託を受け、都がまとめています。

【副部長】

だけど、どういう項目を調査するかは東京都が決める。

【印出井景観・都市計画課長】

23区は、例えば東京都がやった土地建物現況調査に対して付加的な調査をするのですとか。

【副会長】

付加的なやつは可能なですね。

【印出井景観・都市計画課長】

区として区の予算をかけながら付加的な調査をすとかということとはできると思います。

【副会長】

実際にやっているということですよ。なので、ここの部分については、前から村上先生も言われているように、建物のエネルギー使用の現況データというのはまだ非常に限定ですよ。これまで単発的に研究室にご協力してやっていただいてやった例はあるのだけれども、もっと継続的、体系的にやっていくという意味でいけば、都市計画基礎調査の付加的調査として区のほうが自主的にやるということが可能であれば、そういう方針をちゃんと書いたほうがいいような気がします。

【印出井景観・都市計画課長】

そこはそういうご意見を。

【副会長】

方針を書くということは、区のほうの予算当局から行くと、何だ毎年ではないけれども、3年に一回か、5年に一回か、5年に一回予算要求をされるのかという点はあるだろうから、当然、区のマネジメントの部分で議論して、しょうがない、書いてもいいやということになれば5年に一回の基礎調査のときにそういう予算がつくということになりますよね。なので、そのやはり議論はしたほうがいいのではないかなというので、都市計画基礎調査の中で、今、千代田区として付加的にやっているのはこういう項目ですよというのを一度見せていただくと、それぞれの先生方の中から、こういうのは付加としてできないのかというご意見をいただいて、予算の措置のことも含めた実施可能性を事務局で検討していただいて、可能性があるものについてはやってもらうというのはやったほうがいいような気がします。

【印出井景観・都市計画課長】

そこを明確に5年に一回淡々と都市計画基礎調査を東京都と連携してやっているだけではなくて、都市マスのマネジメントに使おうということが今の段階で指摘されていますので、そこを具体化する中で、あわせてエネルギーの面だとか交通の面だとかというアイデアをいただくことが。

【副会長】

このワーキングは、次回いつやるかわからないけれども、次回やるときに、今の点は整理できませんか。一、二枚の、1枚の紙でいいわけですよ。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。

【副会長】

たくさんのことをやっていると思わないから、東京都の都市計画基礎調査はこういう項目ですよ。項目の列挙だけでいいのですよね。千代田区としてプラスしてやっているのはこれと、これと、これですよというのを説明していただいて、ご意見いただいた上で、可能なものがあればやると。

【印出井景観・都市計画課長】

正直言って、今、付加的なものはほとんどやってないので、千代田区固有の分析はやってますけれども。

【副会長】

あ、ゼロ。

【印出井景観・都市計画課長】

東京都からいただいたものを千代田区として再分析するという事はやってますけれども、付加して調査はしてないです。

【副会長】

それはやっぱり一度ちゃんと区長まで含めて、こういう状態になっていて、こういう社会情勢の中で先導的に、例えば環境モデル都市で行動する場合にはこういう情報をきちっととったほうがいいからとか、こういうテーマについては、今後、行政課題として重要になってくるので、付加的に考えたほうがいいからといって意見が出ましたよと。やろうとするとこのくらいお金がかかりますよということで判断していただいて、このくらいならやろうということになればやるし、いや、これはとてもできないからやめようというのであればそれでしょうがないと。だけどそれをやったほうがいいと思うのですけれども。

【印出井景観・都市計画課長】

そういう検討をさせていただきます。

【副会長】

これ重要な点なのです、データ。今、統計局のほうが、がたがたしているけれども、やはりちゃんとしたデータがないと、全てに何もできないのです。

次回出してくださいこれ、現況はどうなっているか。

【印出井景観・都市計画課長】

現況の報告。すみません、次のところで。

【副部会長】

では、これ以上ですね。

どうもすみません。あまり今日は必ずしもうまくなくてすみませんが、以上で、では今日の第1回のワーキングを終了いたします。ご苦労さまでした。

《発言記録作成：環境まちづくり部景観・都市計画課》